

いわての看護

Iwate Nursing

今号より、ナースセンター、
訪問看護総合支援センターからの
お知らせを毎号掲載しますので、
ご覧下さいね！



奥州市水沢 くくり雛まつり

LINE 公式アカウント 友だち募集中

LINE 公式アカウントを開設し運用しています。
まだ開設したてですが、今後タイムリーな情報をお届けする
予定ですので、お友達登録をよろしくお願いします。



登録はこちらから！

●令和7年度 岩手県看護協会 会員数の動向

保	助	看	准看	計
275人	291人	6,690人	104人	7,360人
令和7年度 災害支援ナース登録者			144人	

令和8年2月28日現在



やっばずんだ！
宮城県



起上り小法師
福島県

北海道・東北シリーズの
かんごちゃん紹介、
最終回だよ！



会長あいさつ

公益社団法人岩手県看護協会
会長 相馬 一二三



樹木の芽吹きに嬉しさを感じる季節となりました。皆様には、厳しい医療環境の中、患者・家族に寄り添い温かい看護をしていただいていることに心より感謝申し上げます。

当協会では、地域医療構想も視野に入れ日本看護協会・行政と連携を図りながら、看護職の役割を最大限に発揮できますよう労働環境の整備や看護の専門性と質向上の支援など、より一層、注力してまいりたいと思っております。

さて、日本看護協会は、「看護の将来ビジョン 2040」を8月に策定しました。～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～とし2040年に向けて看護がめざすものとして **1. その人らしさを尊重する生涯を通じた支援 2. 専門職としての自律した判断と実践 3. キーパーソンとしての多職種との協働**の3つを掲げています。また、高齢化のピークを迎え社会・医療の大きな変化が予想される2040年に向けて、看護職一人ひとりが自らの実践について考える機会とするために、「これから私たちがすべきこと」として全国6ブロックで意見交換会を開催いたしました。

北海道・東北地区は、当協会が当番県であり全国に先駆けて意見交換会を実施いたしました。有識者として野原勝企画理事兼保健福祉部長から「岩手県の看護職を取り巻く現状・課題と2040年に向けた看護職への期待」をテーマにご講演いただきました。岩手県の現状を具体的に説明していただき、参加者からは大変好評でした。その後、勝又浜子日本看護協会副会長の司会により野原勝氏と秋山智弥日本看護協会会長、そして相馬が鼎談を行いました。鼎談の中では、岩手県の実情を踏まえながら看護DXの推進・在宅医療の推進・看護教育などについて充実した意見交換会ができました。

現在、在宅医療が推進される中、看護職は、医療と生活の双方の視点からケアを実践しています。2040年に向けて看護の担い手が減少する一方で高齢者の単身世帯が増加すると推計され、様々な社会変化を背景に、より複雑で多様なニーズへの対応がますます求められます。今後は、これまでの既存の枠組みにこだわらず発想を転換し、地域間での連携や看護専門職としてより高い自律性をもち多職種・他機関との連携・協働が必要となります。

そして、看護職が活躍する基盤となるものとして、看護職一人ひとりのウェルビーイングが重要であり、日々の看護実践にやりがいを実感し、心身ともに充実して働ける環境づくりとして多様で柔軟な働き方などに取り組んでまいります。また、「看護の原点」は不変であり、いつでも・どこでも・誰もが適切な看護サービスが受けられるよう保健・医療・福祉の視点から邁進してまいります。

2026年の干支は丙午（ひのえうま）です。「元気に動けば新しいご縁やチャンスが広がりやすい」と言われており、いろいろな課題に対し皆様と共に前を向いて取り組んでまいりたいと考えています。

結びに会員の皆様のますますのご活躍とご健康を、そして、新しいことにチャレンジする年でありますよう祈念申し上げます。

令和8年度の日本看護協会重点政策

- ① 看護職一人ひとりのウェルビーイングの向上
- ② 持続可能な看護提供体制の構築
- ③ 質の高い看護実践のための教育制度改革の実現
- ④ より高い自律性を持った専門職としての活躍
- ⑤ 地域における看護の拠点の確保

令和7年度 岩手県看護研究学会開催報告

令和7年度岩手県看護研究学会は、11月29日にハイブリットで開催しました。

当日は会場参加、Zoom参加を合わせて398名が参加し、20演題の発表により活発な意見交換の場となりました。「看護の未来を拓くイノベーション」をメインテーマに掲げ、石川県立看護大学学長 真田弘美氏と岩泉ホールディングス株式会社代表取締役 山下欽也氏を迎え、講演いただきました。

イノベーションとは「革新的な技術や発想により新たな価値を生み出し、社会に大きな変化をもたらす」という意味です。真田氏の講演では、看護理工学研究での先駆的業績やウェルビーイング看護学講座開設におけるリーダーシップなど、多角的なイノベーションに触れる機会となりました。参加者からは、今後の自身の仕事への取組課題を見出すことができたなど、職種や経験年数を問わず貴重な学びになったといった意見が多くありました。山下氏の講演では、誰のためにどんな仕事をするかの目的が明確で、日々進化を求めて生き活きと活動されている姿がとても印象的でした。職種は異なりますが、人間力を高めることの重要性を学び、同じ岩手で活躍する方から力をいただいたと感じました。

本学会を通じて、岩手県の2040年の将来を考えながら今私たちは何をすべきなのか考える機会になりました。岩手だからできる地域のつながりを持った看護力を発揮できるのではないかと高い志を改めて確信する機会になりました。

最後に本学会の開催にあたり、ご参加いただいた皆さま、ならびにご協力いただいた関係者の皆さまに感謝申し上げます。

(学会委員長 田村 聖子)



学会長あいさつ

お人柄が感じられるホットなお話でした。



岩泉ホールディングス(株)
代表取締役社長 山下 欽也 氏



一般演題に質問!



宇宙服姿の真田先生、
看護はどこまで発展する??



そして、もう一種類、
皆さんに次々世代の看護をお任

令和7年度 地域別懇談会について

今年度は10支部を4地域に分け、ハイブリッド開催で行いました(表)。本部及び各支部の令和7年度・8年度の事業について意見交換した後、懇談に入りました。懇談テーマは下記の通りです。

- ①支部活動における課題
- ②組織基盤強化における本部への要望
- ③ナースセンターの事業紹介およびセンターへの要望(看護管理者懇談会)

③については、最初にナースセンター事業部長から3つの委託事業(看護職員の確保定着推進、看護の心普及、看護職の働き続けられる職場環境づくり推進)の説明を行いました。参加者からは「ナースセンターがどんなことをしているのか、初めて理解した」という声も聞かれました。また、①②については、各支部や職能委員から様々な活動が紹介されました。会員が減少し役員選出に苦慮しながらも、忙しい中看護協会の組織拡大にご尽力いただいている支部役員の皆様に改めて感謝をお伝えしました。

懇談で出された意見を一部紹介します。

支部活動における課題・組織基盤強化について

- 会員数が減少しており役員を担う施設が限定されてきている。
- 看護協会の入会についてメリットがないと言われると勧誘しにくい。労働組合にも入らない等、新人の価値観が変化していると感じている。
→看護職同士のつながりや他地域との情報交換等、協会活動の中で感じたメリットを伝えると有効。
- 支部だよりはホームページ(以下、HP)から閲覧できるようになったが、会員であってもHPを見ることが少ない。会員確保のためにも各施設に数部ずつ配布してほしいという声があった。
→支部だより、いわての看護の非会員施設への送付が入会促進につながるのであれば、支部計画に立案していただき対応したい。
- キャリナースからの入会手続きは便利だが、管理者が知らないうちに退会していることがある。今年、50歳代の退会者が多く、その方々に研修を勧めたり、魅力を発信する必要があると感じている。

人材確保のために取り組んでいること・ナースセンターへの要望について

- 求職者が希望する働き方と求人施設が望む働き方が違うためにマッチングしない。夜勤可能者の確保が困難。60歳以上の人にも夜勤をしてもらい、高額な人材派遣会社も活用しているが、最近はその中でも確保できない。
- 昨年より病棟・外来を一元化して人材を有効活用している。
- 看護学生のアルバイトを採用し、夕方の繁忙時間帯のみに勤務してもらっている。
- 多様な働き方が増えると体制整備も重要になるが、積極的に受け入れていきたい。
- 首都圏での就職を希望する看護学生が多いので、ナースセンターの出前授業や進学セミナーに期待したい。

(常務理事 目時のり)

開催状況

地域	開催日	参加者数
県北(久慈・二戸)	11/ 8 (土)	45名
沿岸・県南 (釜石・宮古・大船渡)	11/15 (土)	62名
中央(花巻・北上・奥州)	12/ 6 (土)	79名
盛岡	12/13 (土)	69名



(公社) 岩手県看護協会事業

「自治体保健師の魅力発信イベント」を開催しました！

日時 令和7年12月20日(土) 13:30～15:30 会場 マリオス18階

- 自治体ブース：大船渡市、一関市、岩泉町、田野畑村
- 何でも相談ブース：県保健福祉部保健師・紫波町保健師



イベント前半は紫波町保健師の引木氏から、保健師になるまでの経緯ややりがい感などをお話いただきました。次に県庁保健師の湊氏から、県内保健師の状況や就学資金貸付制度等について、わかりやすく説明いただきました。また、飛び入りで県ふるさと振興部市町村課の小島氏から、保健師の共同選考採用について説明があり、新たな取組を知る事ができました。

後半は、看護学生27名が自治体ブースと何でも相談ブースを訪問しました。どのブースでも学生の皆さんから活発に質問があり、メモを取りながら熱心に聞いていました。保健師だけでなく採用担当の事務の方含め、笑顔で熱心に対応していました。

終始、会場全体が活気に満ち、賑やかなイベントとなりました。最後に参加者全員が車座になり、4名の看護学生の方に感想をお話いただき大きな拍手に包まれ、盛会裏にイベントを終了しました。

運営支援では、当協会の副会長・保健師職能委員の全面協力によりオール岩手で取り組みました。

今後も自治体保健師に興味を持ち、「地域を支える保健師」を目指すきっかけとなれば幸いです！

(事業担当 高橋 弥栄子)

各相談ブースの様子



大船渡市



一関市



岩泉町



田野畑村



何でも相談ブース
(左から引木・湊・小島さん)

好評の
ノベルティグッズ
(卓上加湿器)



会場全体の様子
(中央テーブルには自治体パンフ)



看護学生・自治体の方以外にも、教員の方や県関係者の皆さんが来てくれて、さらに盛り上がったんだあ!!

by 保健師かんごちゃん

令和7年度 岩手県総合防災訓練に参加して

今年度の岩手県総合防災訓練は、11月8日に釜石市・大槌町で行われました。訓練は巨大地震及び大津波警報が発表された想定で、72項目の訓練を実施し、83の関係機関、約4300人が参加しました。訓練では救出救助、避難所運営、支援チームの活動などに関し、自治体と関係機関、団体が連携等を確認しました。

当会からは、防災・災害看護委員2名と、今年度初めて県立釜石病院の災害支援ナース1名が参加し、釜石東中学校体育館に設営された避難所での活動訓練を行いました。当日は、保健師と協働して避難所の巡回、健康相談、健康チェックを実施し、他機関との連携などを確認することができました。

また、「保健医療福祉調整本部」訓練が初めて実施され、災害支援ナース代表として、私が本部に入り情報収集等を行いました。訓練では、保健医療福祉調整本部から連絡が入り、車中内で過ごす避難者が増えているとのことで、巡回および健康チェックの依頼がありました。JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）と協働して、巡回計画を立案するなど、実際の現場や状況を想定して訓練することができました。

初めて参加した災害支援ナースから、「訓練に初参加し、貴重な経験ができて良かった」との感想が聞かれました。災害支援ナースは、災害発生時や新興感染症発生・まん延時に対応していく役割があります。今回のように実際の訓練に参加することで、より被災者の状況を的確に判断する力や、マネジメント力、コミュニケーション力の向上が期待できます。次年度も防災・災害看護委員のみならず災害支援ナースとともに訓練に参加したいと思います。



(防災・災害看護委員長 島山 亜紀子)

災害支援ナースの活躍が期待されるね！



災害支援ナース
かんごちゃん



避難者ブースの様子



初めての保健医療福祉調整本部訓練

◆ 大災害時「保健医療福祉調整本部」とは 解説 ◆

- 大規模災害発生時に都道府県の災害対策本部の下に設置され、**保健・医療・福祉に関する支援活動を総合的に調整する司令塔**です。熊本地震の教訓を受け、保健医療活動の総合調整が不十分であった課題を解決するため、平成29年の厚生労働省通知により都道府県に保健医療福祉調整本部を設置することが定められました。
- 保健医療福祉調整本部の役割として、**活動チームの派遣調整、情報連携と整理・分析、総合調整**があります。

令和7年度 第2回「助産師活躍推進セミナー」を開催しました!

日時 令和8年1月24日(土) 10:00～12:00

会場 盛岡地域交流センター マリオス 185.186 会議室

内容 講話「産後ケアにおける母乳育児支援と乳房ケア」：ふわっこ助産院院長 長内 明梨 氏
産後ケア事業報告：二戸市健康福祉部子ども家庭課子ども家庭センター 高村 明子 氏

参加者 31名（保健師3名 助産師27名 行政職1名）

はじめに、本事業の委託元である県保健福祉部医療政策室から本事業について説明いただきました。

講話では、秋田県大館市で開業助産師として、産後ケアに携わっている長内明梨氏より、助産院での産後ケアの実施についてお話がありました。乳房トラブルの相談では、トラブルの原因について、授乳状況や生活習慣を含めてアセスメントし、“実践可能な方法を母親と一緒に考える”“母乳栄養が一番とは思わない”“赤ちゃんが成長できれば良い”など、母親が負担なく母乳育児を継続できるよう母子をサポートしていくことが重要であるとのことでした。また、断乳や卒乳の時期に正解はなく、母親の考えを尊重し、個別性のある支援の必要性を話されました。参加者からは、乳房ケアについて再確認できたという声が複数寄せられました。

事業報告では、昨年6月からデイサービス型の産後ケア事業を開始した二戸市の高村明子氏から報告がありました。産後ケア事業を始めるまでの経緯、関係機関と検討を重ねたこと、産後ケア事業の概要と実際の様子、サービス向上のための連絡会議等、具体的にお話いただきました。また、産後ケアを担当している県立二戸病院の助産師や看護管理者から「産後ケアを担当することで助産師としての活力になっており、病院でのケアにも活かしている」「看護職員に余裕のない環境下で不安はあったが、混合病棟業務が増えている中で、産後ケアに携わることで助産師の専門性発揮に繋がっている」との発言がありました。当会から、二戸市に紹介した助産師2名も役割発揮いただいています。

アンケートでは満足度・理解度・役立ち度など評価が高く、セミナー終了後も各講師に質問をしたり、参加者同士の交流の場となりました。

(助産師活躍推進コーディネーター 吉田 敬子)



ふわっこ助産院 長内 氏



二戸市保健師 高村 氏



いつでも、どこでも、
産後ケアを!!

助産師かんごちゃんです



皆さん、真剣に聞いています



セミナー終了後もワイワイと情報交換

ヘルシーワークプレイス!!

ー健康で働き続けられるためにー

シリーズ No.9



今回はプラチナナースのセカンドキャリアについて紹介します。

働き続けられる環境づくり推進委員会

プラチナナースの皆さんは長年看護の現場を支えてきた経験を持つ一方で、今後のキャリアについて悩む方も多いのではないでしょうか。そんなプラチナナースの皆さんが今後も看護職として働き続けるためのヒントを得たいと思い、11月7日に開催された「セカンドキャリアセミナー」に参加しました。

セミナーでは、参加者から「このままの働き方でよいのか」「自分を雇用してくれる職場はあるのか」「再雇用後の給与面で不安がある」といった声が聞かれました。どの意見からも長く看護職として働いてきたからこそ生まれる悩みや迷いが感じられ、人生の転機に立っていることが伝わってきました。

講師の方からは、経験豊富なプラチナナースは知識や技術だけでなく、判断力やコミュニケーション力といった点でも即戦力として高く評価されている。そして様々な分野で求められている事が紹介されました。また、自分が何を大切にしたいのかを明確にすることが重要だと教えていただきました。やりがいを重視するのか、または収入を優先するのか、働く時間や場所を大切にしたいのかなど、自分が何を望むのかによって選ぶ職場は変わります。まずは自分と向き合い、働き方をじっくり考える必要があります。悩んだ時には一人で抱え込まず家族や友人、同僚に相談することに加え、岩手県ナースセンターを活用する事も一つの手段です。



講師の特別養護老人ホーム富美岡荘副施設長兼看護師長 東 美也子 氏(左)
ソニックジャパン 盛岡支社長代理 吉田 長美 氏(右)

岩手県ナースセンターでは無料で職業紹介やセカンドキャリア支援を行っており、プラチナナースが安心して次の一步を踏み出すための心強い存在です。自分の経験や希望に合った働き方を一緒に考えてもらえることは、大きな支えになると感じました。

人生100年時代!! まだまだ先のある人生です。プラチナナースは、これからも社会に必要とされています。看護職として働き、そして輝き続けていくために、自分に合った働き方が見つかることを心から応援しています。

～どうなる?? 2026年度からの認定看護管理者教育課程～

見直しが進められてきた認定看護管理者教育課程は、これまでの3段階から看護管理研修（付加研修含む）と認定看護管理者教育課程の2段階になります。看護管理研修は2027年度から、認定看護管理者教育課程は2028年度から各教育機関で実施されます。2026年度以降の認定看護管理者教育課程に関連して、2点お知らせいたします。

① 岩手県内の看護管理者への説明会

認定看護管理者教育課程 見直しの理由とどのように変わるかについて、下記の通り説明会を行います。看護管理者の皆様はぜひご参加ください。

- ✓ 日時：6月19日（金）15時～16時 オンライン開催（Zoom ミーティング）
- ✓ 講師：日本看護協会 常任理事 木澤 晃代 氏

参加は
マナブルからの
申し込みです。

② 2026年度はファーストレベルとサードレベルを開講します。

募集要項は岩手県看護協会ホームページをご覧ください。

令和7年度 リスクマネジャー交流会を開催して

リスクマネジャー交流会を、11月7日に「医療・看護安全対策について情報を学び、医療安全管理者としての役割を再認識し今後の活動に役立てる」を目的に集合開催しました。会員・非会員合わせて43名が参加し、昨年度に引き続き「患者・家族からの苦情、暴言への組織的対応」をテーマに、岩手医科大学総合保安対策室長 小野寺憲一氏よりご講演をいただきました。

講義内容は、①パターン別対応要領 ②各ケースの共通ポイント（情報収集、対応方針の策定、警察・弁護士との連携）、並びに昨年度の講義からのポイントについて、多くの事例をもとにお話いただきました。

講義後のグループワークでは各施設の現状について意見交換し、各施設において「患者・家族からの苦情、暴言」に対する体制整備が整っていないこと、患者の初期対応がリスクマネジャーであることが多く困難感を感じていること、対応へは個人の経験や力量により差があることなど課題が多く挙げられました。今回、対応の実際を学んだことで苦情・暴言に対するマニュアルの整備と院内周知、組織的対応フローの作成、ポスターでの患者への啓発等、役割遂行に必要な知識を深めることが出来ました。

次年度の開催に向けて、皆様から多くのご意見をいただきました。それらを踏まえ、次年度も安全行動に繋がる研修会となるよう取り組んでいきたいと思っております。

（医療・看護安全対策委員長 浅尾 洋子）



患者・家族からの苦情、暴言は、組織的な対応が重要であることなど、興味深いお話でした！

医療的ケア児関連 連載第3回

「医療的ケア児の就学進学説明会を通じた医療・教育の連携について」

岩手県医療的ケア児支援センター 相談窓口（みちのく療育園メディカルセンター）
医療的ケア児等コーディネーター / 看護師 大力 聡美

岩手県医療的ケア児支援センターでは、就学・進学における保護者の不安や悩みに応えるため、県教育委員会と連携し「就学・進学説明会」を開催しています。医療的ケア児の場合、「支援学校か普通校か」「どこに相談すればよいのか」「どのような準備が必要か」など、情報不足から先の見通しを持ってない保護者が多い状況です。地域の支援者にとっても就学に係る体制作りは課題であり、同日に看護協会の協力も得て多職種の情報交換会も実施しています。

説明会では、県教育委員会から特別支援学校や地域の普通校の学びの場、就学までの流れ、早期相談の重要性について具体的に説明し、実際の事例を通して一日の生活や支援体制をイメージできる内容です。

この取り組みを通じ、医療的ケア児の就学を地域全体で支える視点が広がり、早期相談の体制構築や医療・福祉・教育の連携、顔の見える関係づくりが進んでいます。それに伴い、地域の普通校に通う医療的ケア児は増加傾向で、訪問看護師が学校でケアを行うケースもあり、学校は多職種連携を超えた協働の場となっています。そのため、就学・進学説明会は、看護師にとっても大きな意義を持つ取り組みと考えます。多分野と顔の見える関係づくりが進むことで、医療職としての専門性を地域全体の支援体制の中で発揮しやすくなり、チームで医療的ケア児と家族を支える仕組みがさらに広がっていくのではないのでしょうか。



岩手県訪問看護総合支援センター通信

訪問看護は、自分らしい暮らしを人生最後まで続けられるよう、在宅療養者のいのちと健康を守る拠点として、地域に欠かせないサービスです。当センターは訪問看護事業所の皆さまの架け橋となり総合的な解決を目指すため開設されました。

3つの目的7つの機能を掲げ各事業に取り組んでいますが、今回は3つの目的である「**運営支援**」「**人材確保**」「**訪問看護の質向上**」の具体的な取り組みをご紹介します。

1. 運営支援



「巡回訪問」

当センター職員が訪問看護事業所に直接訪問し、困り事のご相談等をお聞きしています。また、研修等のご紹介もしています。

今年度は盛岡と沿岸を中心に14事業所へ巡回訪問を行いました。巡回訪問を行うことで、人員不足の現状や事業所のサービス提供状況を共有でき、そこから地域ごとの課題を見出すことに繋がるため、今後も巡回訪問を継続していきたいと思えます。

2. 人材確保



「出前授業」

訪問看護師の魅力発信として看護師養成所への出前授業を実施しました。

実際に訪問看護の現場で活躍されている訪問看護師の皆さんが講師となり、看護師養成所において「訪問看護師を志したきっかけ」「訪問看護の楽しさ」等、お話しいただいています。

今年度は県立大学看護学部3年生32名、県立宮古高等看護学院1、2年生49名の皆さんに訪問看護の魅力を伝えました。



県立大学看護学部での講義の様子

(左) 訪問看護 ST ありがとう 村木 優唯 氏 (右) ソルド訪問看護 ST 佐藤 舞 氏

県立宮古高等看護学院

(右) 咲希訪問看護ステーション
菊地 美紀 氏
(左) あゆみ訪問看護ステーション
齋藤 裕基 氏

3. 訪問看護の 質向上



「News Letterの発行」

昨年12月、訪問看護に関する情報発信および情報共有を目的に News Letter NO.1 を発行しました。これからは岩手県看護協会公式 LINE、当センターメーリングリスト登録事業所へ配信します。ご期待下さい。



訪問看護に関する研修
(基礎・専門・管理)等も
企画しておりますので
ご活用下さい。



いわての ナースセンター だより

岩手県ナースセンターはあなたを応援!!



令和7年度再就業支援研修会 (岩手県委託事業)実施報告

- 開催日程及び参加人数
- 7月8・9・11日看護研修センター 8名
 - 10月9・10日総合花巻病院 5名
 - 上記実施日の他に施設研修1日 5名

分かりやすい講義で、演習もとても良かった

参加者の声

話をじっくり聞いてもらい、背中を押してもらえた

一緒に参加した人との交流もあり、1人ではないと思えた



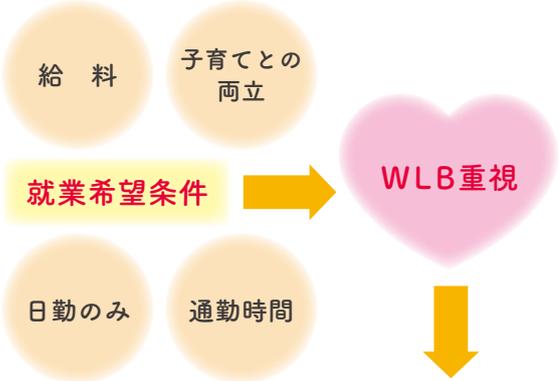
救急蘇生法演習



会長との懇談

令和7年度求職登録者の状況調査 (未就業看護職員実態調査)報告

- 対象：求職登録者 121名
回答者 58名 (回答率 48%)
- 求職登録者は60歳以上が約52%を占めています



～求人施設の方へ～
柔軟で多様な働き方への対応が
応募者を増やす鍵です

看護のおしごと【オンライン相談】してみませんか?

完全無料

自宅にいながら、おしごと相談ができます

相談日時
月～金曜日
10時～12時、
13時～15時

申込はこちらから!⇒



- 相談方法
- ①日時予約：希望日の3日前まで(土日祝祭日除く)に、電話・QRコード・岩手県看護協会ホームページから申し込み
 - ②Zoom URLの連絡：日程が確定したら、URLなど詳細を申込者に連絡
 - ③オンライン相談日：予約日時に、送信したURLにアクセスし、オンライン相談開始

離職される方へ

現在、仕事をしていない・退職予定の看護職の皆さん

保健師 助産師 看護師 准看護師

看護師等の届出制度をご存じですか?

届出はお済みですか?

- 全ての項目を記入してください。
- 全ての項目を記入しないと「申請中」となり、「届出完了」となりません。

同時に求職登録

～看護の現場を離れても、看護職の私を忘れない～

- 自分にマッチした施設の求人情報を画面で見ることができる
- ナースセンターでは求職票の情報を元に「また働きたい」を支援します

岩手県ナースセンター TEL: 019-663-5206 E-mail: iwate@nurse-center.net

登録しましょう!!



お問い合わせ：岩手県ナースセンター
TEL：019-663-5206 e-mail：iwate@nurse-center.net

岩手県看護協会 令和7年度理事会報告

開催日	協議事項等
第5回 令和8年2月13日	(1) 令和7年度重点事業実施報告及び第3四半期事業報告 各支部第3四半期事業報告 (2) 令和7年度第3四半期決算報告 (3) 令和8年度岩手県看護協会通常総会プログラムについて →すべて承認

令和8年度岩手県看護協会通常総会

期日 令和8年6月27日(土) 9:30～

会場 トーサイクラシックホール岩手 中ホール

令和8年度通常総会では定款の一部改正(案)についてご審議いただく予定です。定款の改正には正会員2/3以上の決議が必要となりますので、総会参加(委任状含む)にご協力をお願いいたします。詳細につきましては「いわての看護 総会号(5月発行)」にてお知らせいたします。

会員管理担当者から

- 勤務先、自宅住所が変わったら、変更手続きが必要です。「会員専用WEBページキャリアース」からお手続きをお願いします。書面でお手続きを希望される場合は、変更届をお送りいたしますので事務局までご連絡ください。
※書面の場合、手続き完了までに1か月程かかりますのでご了承ください。

変更手続きは
お早めに!

未加入の方への
入会のお誘いを
お願いします

看護協会入会のご案内 令和8年度入会受付中!



※会員有効期間は、令和8年4月1日～令和9年3月31日までの1年間です。

継続・再加入

■日本看護協会年会費 5,000円
■岩手県看護協会年会費 10,000円
合計 **15,000円**

新規加入

■日本看護協会年会費 5,000円
■岩手県看護協会年会費 10,000円
■岩手県看護協会入会金 20,000円
(初回のみ)
合計 **35,000円**

【問合せ】

公益社団法人岩手県看護協会
事務局

☎ 019-662-8213 まで

訃報

二戸支部会員 中野美枝子様(前 協会立二戸訪問看護ステーション所長)が令和8年1月6日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

春へと移ろう三月。看護の現場で積み重ねた経験と想いが地域を支える力となります。本誌が日々の実践を振り返るきっかけとなり、次の一步へ踏み出す勇気をお届けできれば幸いです。